

23. 高脂血症患者に対する二重膜濾過血漿交換療法 (DFPP) 及び低比重リポ蛋白吸着療法 (LDL 吸着) の効果

藤井義久*¹・中川聖文*¹・錦織伸司*¹・山中英樹*¹
 小山淳雄*¹・片寄恭次*¹・長廻 鍊*¹・白川浩希*²
 金 聲根*²

*¹ 島根県立中央病院臨床工学科, *² 同腎臓科

【目的・方法】平成10年4月～8月までの期間に家族性高脂血症患者4症例に対し、二重膜濾過血漿交換療法 (以下DFPP) を施行した2症例と、低比重リポ蛋白吸着療法 (以下LDL吸着) とDFPPを併用した2症例について、比較検討を行った。比較方法については、DFPP及びLDL吸着実施前後のTP, ALB, T-cho, 中性脂肪, HDL-co, 免疫グロブリンの除去量と循環中の血圧変動について比較検討を行った。

【結果】今回の結果として、TP, T-cho, 中性脂肪の除去量においては差は見られなかったが、免疫グロブリンの除去量と、循環中の血圧は、DFPP実施時において変動が激しかった。

24. 下肢の閉塞性動脈硬化症に対し LDL-A を施行後、10年来の尋常性乾癬が消失した1症例

大藪靖彦*¹・鈴木宗子*¹・新田 豊*¹・藤田建次*¹
 田添裕子*¹・中村公彦*¹・三好昭寿*¹・安田芳美*¹
 新井 亨*²

*¹ 済生会下関総合病院腎センター, *² 新井医院

症例は、47歳の男性で、1974年12月12日より慢性糸球体腎炎を原疾患として血液透析を開始した。その後新井医院に転院し維持血液透析を行っていた。約15年経過した頃より、透析アミロイドーシス及び動

脈硬化による種々の症状が出現して来た。それと同時に四肢の伸側に乾癬を生じ、皮膚科にて治療を行っていたが寛解せず、長い間悩んでいた。下肢の閉塞性動脈硬化症のため、1997年9月9日よりLDL-Aを計10回施行したが、歩行困難が軽快すると共に、乾癬も完全に消失した。1年経過した時点も完全寛解状態が続いている。閉塞性動脈硬化による歩行困難に対して使用したため、施行前の写真が無いが、著効例として報告する。

25. 家族性高コレステロール血症ヘテロ接合体に対する LDL 吸着療法により著明な総頸動脈病変の退縮を認めた症例

高田耕基・坂井賢哉・木戸幸司・前田幸治
 広島鉄道病院第2内科

家族性高コレステロール血症 (FH) ヘテロ接合体においては、冠動脈病変のみならず、約1%の症例に内頸動脈閉塞をきたす症例が存在する。片側の内頸動脈の完全閉塞と他側の50%狭窄を診断されたFH症例に対して、頸動脈エコーを施行した結果、総頸動脈に巨大なプラーク、内中膜複合体 (IMT) 肥厚を認めた。LDL吸着療法 (Liposorber, 3L/回/2週間) を施行した結果、1年後にはプラークが完全に退縮するとともに、IMTも著明に退縮した。冠動脈造影にては、吸着療法前より有意の狭窄病変は認めず、脱コレ剤、抗血小板剤も併用し、LDL-コレステロール、トリグリセライド、HDL-Cは、治療前の209, 153, 52 mg/dlから治療開始1年後は187, 128, 35 mg/dlに変化していたが、吸着療法直後には85, 29, 31 mg/dlに低下していた。